



平成9年7月1日
 群馬県立
 太田工業高等学校
 同窓会
 0276(45)4742

同窓会員の皆様へ

副会長 木村 清 一

暑さ厳しき折、昨年社会問題となりましたO-157による食中毒事件や異常濁水による利根川水系の水不足等また今年も気になる季節になってまいりましたが、同窓会員の皆様におかれましては、日々お元気でご活躍の事と推察申し上げます。

さて、同窓会報第二十五号で既に御案内いたしておりますが、同窓会員名簿の発行が本年度十二月の予定となっております。発行業者からの調査依頼が会員の皆様に届いていると存じますが会員の皆様には、御多忙と思いますがクラスの常任幹事さん或いは、会員同士連絡を取り合ってください、会員の皆様が有効に活用出来るようなより精度の高い名簿発行ができますように協力の程、お願い申し上げます。

同窓会本部も平成五年の常任幹事会で関会長体制でスタートして

早いもので五年が経過し、その間に3名の本部役員を迎え、現在、十名の体制で活動しております。

また、平成八年度事業報告並びに決算報告、平成九年度の事業計画並びに予算が六月の常任幹事会により可決されスタートしておりますが、最近の傾向として、年々常任幹事会に出席されている幹事の方々の出席数が減少しており、議事運営にも影響しかねない状況にあります。

各クラスの常任幹事さんには、幹事会の日程に合せて、案内及び返信ハガキが必ず送付されておりますので万障繰り合せの上、是非出席して頂きますように御願ひ申し上げます。

最後に、会員の皆様は、健康に留意され、より一層ご活躍することを願ひ、今後共、同窓会活動に御協力、御指導を頂き会報二十六号発行の挨拶とさせていただきます。

活気ある太工目指して

校長 今野 秀 克

同窓会会員の皆様には益々ご健勝にてご活躍のこと、何よりと存じお慶び申し上げます。

本校は、創立三十六年目を迎え、そして、会員の数も八千六百名を越えた今、改めて、本校が営々と築いてきた教育やその時々の方々の各位の努力の蓄積を思わずにはいられません。

最近の新聞によりますと、多くの会員が貴重な青春時代を進取の気風に燃えて過された内ヶ島キャンパスがいよいよ常盤学園の短期大学として新たな展開がなされるようであります。会員各位の感慨格別なものがあるかと思ひます。しかしながら、本校が平成元年に、この地に全面移転してから早くも十年近くになろうとしておりますが、職員の熱意や生徒の活躍により、内ヶ島キャンパスの建学の精神は十分受け継がれていると思っております。

さて、本校の近況についてであります。移転以来、大型の設備更新がなかった訳ですが、昨年、FAシステムとパソコンアップした電子計算組織一式を導入し、一層の設備の充実を図りました。

これらの設備を十分活用して、新技術に対応できる素地を育成していく所存であります。生徒は、このような県下でも有数の恵まれた環境の中で伸々と高校生活を過ごしております。

こうしたことを背景として、今春の進路実績は、就職においても進学においても、生徒の進路希望の高い達成率を示しました。部活動においても、昨夏の野球のベスト8は、夢よ再びと将来に期待を抱かせるものでした。バスケットボールも上位をうかがう基盤ができつつあります。陸上競技は、今春の高校総体において、学校対抗五位と公立高校ではトップクラスの力を発揮しました。中でも、二年生の森田純一君の百米、三年生の小澤直和君の百十米ハードル優勝は快挙でした。

また、今秋には、十一月十三日から十六日までの四日間、グリーンドーム前橋を主会場として、全国産業教育フェアが実施されますが、太工の良さをアピールする絶好の機会ととらえ、ロボットやホーパークラフトなど幅広いアイデア作品の製作に生徒と職員が一体となり、夜遅くまで取り組んでおります。会員の皆様にもこの全国産業教育フェアを是非ご参観いた

だけたら幸いです。
このように、生徒が生き生きと活躍できるように活気ある太工を目指しておりますが、これもひとえに会員の皆様の物心両面にわたるご援助、ご声援のお陰であります。今後とも、後輩並びに母校に対する会員各位の変らぬご指導、ご支援をお願い申し上げます。

同窓会本部役員

退任のあいさつ

前副会長 松原良之

新緑もまぶしく、又あちらこちらの庭先では五月が咲き誇っている今日この頃ですが、同窓会員皆様におかれましては、お元気で御活躍されている事と、ご推察申し上げます。

今回、六月十二日(常任幹事会)において同窓会本部役員を退任致しました。

小生が、副会長として二十四年間無事にやってこられたのは、同窓会本部役員の方々はもちろんの事、会員皆様の御指導、御協力によるものと心から感謝申し上げます。

この間を振り返りますと、この当時無我夢中でありましたが、同窓会としては、支部作りの活動や、第二版会員名簿発行準備の時期と

記憶しております。

あれから、あつという間に歳月が過ぎ去り、同窓会の為に十分な力を果たせませんでした。

*卒業生会員名簿作成の準備作業
*同窓会報の発行

*甲子園出場への寄付金活動や、

現地へ応援に出かけた事

*工業祭へ同窓会としての参加

*学校側との協力作業として、創立三十周年並びに新築移転記念等

いろいろ経験が出来ました。大変

だった事、又胸を膨らませ夜行バスで応援にいった事は、良い思い出となっております。

この様な事が出来たのも、周囲の方とふれあう事が出来、充実した

本部役員を過ごす事が出来ました。

この歳月のささえに、同窓会というのは「無用の用」という言葉

を先生(二代校長竹内先生)から

知り、時々思い浮かべる事が有りました。母校の発展は卒業生にと

っては関心から離れない。

今後においては、支部「アキレス(株)」活動を更に充実させ、他の

支部の模範となるような支部作りを行っていきたいと考えております。

長女も二十四才を迎えようとしており、思い浮かべて見れば結婚

した次の年からの活動であり、随分永い間、事で歴史を感じている

次第であります。

常任幹事会において、若い新役員も決まり、今後太田工業高校同窓会並びに学校の益々の発展を期待し、会員皆様の御活躍と御多幸をお祈り申し上げます。

子育ては親育て？

十五E 石井 昭

同窓会会員の皆様こんにちは。毎日元気で活躍のこととご推察いたします。同窓会本部役員を拝命して二年目に入りました。

関会長をはじめ役員の方々と一緒に楽しく活動させて頂いております。今回、寄稿の機会に恵まれましたので、最近感じていることを書いてみたいと思います。

私には9歳と3歳の二人の子供があり、現在子育て真っ最中といったところであります。

子供というのは困ったもので、何にでも興味を示し、できもしないことをやろうとします。

先日、母親が配膳しているのを見た下の長女がしきりに手伝いたがるので、これまで何度も失敗したその度に仕事を増やされた経験をもつ私は、「おまえにはまだムリだからやめなさい。」といったところ、「やってみなくちゃっからな

いよ。」と切り返されました。私はこの言葉を聞いてハッとしました。言葉そのものの響きを凄く新鮮に感じたのです。

子供の好奇心、積極性の醸成を阻害する発言だったと反省させられた事もあります。なにより自身

自身が、現状に甘んじてチャレンジ精神とは無縁のものになってい

ることに気付かされたのです。

子供というのは、ちよつと見ない間にびっくりするほど身長が伸びていたり、言葉も教えたわけでもないのにレバートリーがどんどん

増えていきます。また、顔つきさえもみるみる変わっていくようであり、毎日が劇的な速度で成長しているように感じます。本人にも

できることが徐々に増えていくのが自覚できるのでしよう。

「お父さんも、ぼくらのような心構えで生活しなきゃいつまでたっても成長しないよ。」とでも言われたような気がしました。

私も子供を見習って、1日1日を大切に、前向きに生活していかなくては

ればと、改めて考えさせられたと同時に、子供に対して、余程危険なことをしない限りは大目に見てやるようにしよう、と思っ

ている今日この頃です。

本部役員も任期一杯頑張る所存で

世界への挑戦に

チャレンジ

三十二M 富士重工

中嶋 大 哲

すので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。
最後になりますが、太田工業高校の限らない発展と同窓会会員の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

太田工業を卒業して、早いもので、一年が過ぎました。思えば、暑い日や北風の吹く寒い日も、約10kmの道のりを自転車に通学した日がなつかしく思い出されます。

機械実習などの専門教科では、たいへん難しかったことや、修学旅行など、楽しい思い出も数えきれないほど思い浮かびます。中でも、高校三年間で出来た友達と出会い、教科書では学べない大切なものを学び得たような気がします。

卒業後、地元の企業に就職し社会人としての第一歩を踏み出し、学校生活とはまた違った責任や、時間の重要性を今、つくづく感じています。また、自分自身の目標をしっかりと持って、毎日努力をしていますが、多少つらい時もあります。高校時代の友人や会社の先輩、上司の皆様にお礼を申し上げます。

と一年が過ぎ、なんとか社会人としての生活になじんできたような気がします。

そして今、一つのチャンスに恵まれて、青年技能五輪の候補選手として、平成十年に群馬県で開催される全国大会の自動車板金種目の候補選手に選ばれ、毎日技能の習得に励んでいます。全国大会で一位になると、世界大会の道も開け、自分自身できる限りの努力をして、目標に向かってがんばるつもりです。

最後になりますが、友達や会社の先輩、上司と関わりを大切にしながら毎日を送っていますが、太田工業の卒業生として、胸を張っていけるよう努力していきたいと思えます。

同窓生の皆様、今後益々のご健康と、ご活躍をお祈り申し上げます。

同級会

一M 矢嶋 昇

六月十四日、十五日にわたり、湯の街伊香保にて約四年振りに我クラスの同級会を行った。五十歳の大台に突入し子育てもほぼ終り、少しは余裕？もでてくる年代で、泊り掛けでという希望も多く、今回の企画となった。

当日は有志十四名によるゴルフコンペを伊香保国際で行った。梅雨に入り心配された天候も、この季節にしてはめずらしく晴天で、残念ながらスコアの悪さを天気の影響に出来ない程であった。これも参加者全員の日頃の心掛けが良かったものと思われる。ちなみにベスグロは七十五というすばらしい成績で、スコアの良かった者、悪かった者も和気あいあいとしたコンペであった。これを機に同級会とは別にコンペだけは毎年やろうという意見が多かった。

同級会は恩師木村先生、中里先生をお迎えし、二十三名の参加であった。久しぶりになつかしい顔がそろい、宴会もかなり盛り上がった。特に全員による一分間スピー



チはさすがに三十数年が凝縮されているため、十分間も自己PRをしている者もあり、予定時間をかなりオーバーせざるを得なくなりました。二次会が終っても部屋で昔談義が深夜まで続き、翌日は眠むたそうな顔ばかりであった。何年たっても同級生はいいもので、青春時代がよみがえる一時を楽しく過ごすことができ、有意義な同級会であった。お忙しい中参加賜りましたお二人の先生方にも感謝申し上げますとともに、今後ともお元気でご活躍願いたいと思えます。

この後も同級会は定期的で開催していきたいと思えますので、今回参加できなかった人は次回を楽しみにして下さい。



50歳を目の前にして

三E 茂木 正二郎

太田工業高校を卒業して早三十余年、正確に何年に成ると数えられないくらい、年が過ぎてしまいました。在学中のことがだんだん懐かしい思い出というよりも、遠い過去に成りつつあります。

在学中は、応援団長をやり、硬派そのものという性格だった私もだいぶ丸くなりました。卒業後東京三洋電機（現在三洋電機東京製作所）に入社二年後に退社、独立して現在の職業、電気店を営んでおります。開店当初の苦労は、大変な物でした。毎日々個別訪問してセールス、御用聞きの連続でした。一日十戸から二十戸の訪問日が延々と続きました。毎日色々な人と会話をしている内に、その人達の性格、その家々の風習、そして考え方などが理解できかけてきた頃から、性格も柔和になってきたように思います。その頃までは読む本もSFもの電気専門書、宇宙科学ものなどでした。それが何かのきっかけでノアの箱舟の本から、世界の神話の本になり、三国志になり中国文化に興味を持つようになり、史記をマンガで読むことになりました。そして、その本

の登場人物に興味を持つようになり、太公望、孫子、荀子、老子、孟子を読み、その後、孔子、韓非子、はんれいと続き、近頃は、日本の古代史に興味を持ち始めました。今ではイザナミ、イザナギに始まり、卑弥呼、天照の關係、大國主の國讓りの真実などを自分なりに創造しながら、魏志倭人伝（三国志）逆説の日本史などを読んでいます。

若い頃は、歴史とか古典という物には、全然興味がなくこの手の本を読もうと思ったことが一度もなかったのにと、我ながら不思議に思っています。

今考えると、若い頃にこのような物に興味があったら考古学を学び、世界中の古代遺跡をまわり歩いていたかもしれません。など頭の中だけで考えていながら、あいつも変わらず電気店を営んでいる今日この頃です。

開業二十八年蕪川公民館の西隣りで営業しております。社員二名総勢三人の小さな店ですが、近くに來たらお立ち寄り下さい、歓迎いたします。また、一緒に仕事がしてみたいと思う人がおりましたらお話し下さい。

同窓会常任幹事会

今年度の常任幹事会を、六月十二日十八時十五分より、母校会議室で行いました。ここ数年常任幹

議事風景



松原副会長退任挨拶



事の出席が少なく、盛り上がり欠けるのが唯一の欠点です。今後は、多くの常任幹事の出席を要望致します。
(菊地記)

永い間
お疲れさま
でした



二・五グラムとの関わり

三E 斉藤和雄

二・五グラムとは、ピンポン玉の重さです。このピンポン玉との出合いは太田工業高校卓球部に入部した時でした。関わり合って三十余年になります。現在、卓球教室を週に三回行なっています。中学生を対象に一教室、年齢を問わず小学生から熟年までのサークルで一教室、ゆうあいピックの全国大会を目標にした教室を一教室と結構忙しい日々を送っています。

今、思えば自分の人生の中で、このピンポン玉が大きく関わっていることに気がきます。

高校を卒業して就職する時も卓球が出来る会社ということで、現在のシシランオカモト株式会社を選びました。熱心な監督や仲間が生まれ、日曜日でも無しで練習に明け暮れる毎日でした。全日本実業団卓球大会出場を目標に部員が一丸となって頑張りました。その努力が報われてか全国大会には七回出場する事が出来ました。仕事上の悩みも、卓球をする事で、また、監督さんや仲間達に励まされ、乗り越える事が出来ました。つらい練習や、プレッシャーの中での試合を経験する事で、得る

事が沢山ありました。試合になれば誰も助けてはくれません。自分との戦いです。自分に負けた時必ず試合にも負けてしまいます。「自分にだけは負けたくない」これを教訓にこれまでやってきたつもりです。

卓球を通じて最愛の妻ともめぐり合うことが出来ました。卓球教室も妻との二人三脚で頑張っています。最近の妻との会話は卓球の事が圧倒的に多く、教室の子供達一人ひとりがどうしたら上達するのか、練習方法は、マナーは、躰は、等々、指導する事の難しさを痛感しています。子供達の試合を観る度に沢山の感動があります。強い子も弱い子も、精一杯頑張っている姿には感激します。そしていつまでも卓球の指導を続けていきたいと思わされます。六十才、七十才になっても健康で、子供達に囲まれていたいと思う。自分自身も、全日本選手権の七十代出場を目標に、これからは二・五グラムと関わり続けていきたいと思っています。



出 会 い

三十丁 中澤恵美

今、思うと良くあんな遠くまで毎日毎日自転車漕ぎ、三年間も通ったものだと思います。

あの頃を振り返ると楽しいこと、苦勞したこと、怒られたことなど数えきれないほどの思い出があります。

大切な出合いも沢山ありました。クラスメート、担任の先生、各教科の先生、先輩や後輩、そして陸上部との出合い。

私は三年間、陸上部のマネージャーをやらせてもらいました。夏の暑い日も冬の寒い日も毎日外で選手走る姿を見て来ました。嫌だと思ったことも沢山ありましたが、それ以上に得たものがあつたと思います。悔しくて選手と一緒に泣いたことも、みんな喜んでことも今では大切な思い出です。

卒業して私は、東京電力へ就職しました。

入社して初めて電柱に昇る仕事をすると知らされとても戸惑いました。最初の頃は、何度もなくじけそうになりましたが、同期の仲間や先輩方、上司の方々に励まされ今まで続けてくる事が出来ました。

この仕事に出合って、もう四年目になりますが、まだまだ学ばなければならぬことが沢山あります。これから数多くの経験の中で少しづつですが成長していきたいと思えます。

最後になりますが、これから先も、いろいろなことにチャレンジし、自分らしく、元氣いっぱい頑張っていきたいと思えます。そして人と人とのつながりも大切に過ごしていきたいです。

全国産業教育フェア開催される

日時：平成9年11月13日(木)～16日(日)
場所：主会場 グリーンドーム前橋

後輩達が、ロボット及ホーバークラフト等に参加する予定です。
会員皆様方の御見学を宜しく御願いたします。

1996年(平成8年)年度 進路状況及び就職状況
進路状況〔卒業生268名(内、女子7名)〕 (3/21現在)

就職希望	158名(内、女3名)		進学希望	111名(内、女4名)	
	内定	未定		合格	未定・進学 努力継続
学校紹介企業(県内)	116(内、女3)	2	4年制大学	21	2
学校紹介企業(県外)	22	0	短期大学	8(内、女2)	
公務員	0	1	短期大学校	8	
縁故就職	15	0	技術専門学校	6(内、女1)	
自営	2	0	専修(専門)学校	65(内、女1)	1

注) 表の数字には、就職進学者(富士重工業、群馬大学工学部夜間コース)1名が両方に入っています。

進路状況及び就職状況

三年生二百六十八名、うち就職希望者百五十八名(59%)、進学希望者百一十一名(47%)です。昨年は就職希望者53%、進学希望者47%。昨年までは少しずつ進学希望者が増えてきましたが、今年には就職希望者が増えました。求人社数は、四百四十社(群馬・

二百五十五社、関東・百十六社、東京・七十四社、その他・三十五社)。昨年度に比べて2.2%減少です。特に一部の大企業の採用中止や求人数の減が目立っています。今まで本校生の人気の高かった会社の技術職の求人が少なく技能職の求人が多くなって来ています。就職希望者では、二十四名が不合格となり再応募で三名が不合格となり延べ二十七名にのぼりました。これは、不況のため採用数を絞り込んでいることと、その影響で特定の企業に集中し、競争率が高くなり高いことが原因でした。進学の大学・短大の志望者は三十一名(三年生全体の12%)で、合格者は二十九名。指定校推薦で東京電機大一名、湘南工科大一名、埼玉工大一名、日工大五名、湘北短大一名、日大短大一名。公募制推薦では、群大二名、長岡技大二名、日工大二名、上武大二名、芝浦工大一名、日本文理大一名、第一工大一名、上武大二名、桐生短大一名、佐野国際短大一名、足利短大一名、国学院栃木短大一名が合格しています。一般入試では、第一工大一名、上武大一名、佐野国際短大一名、新潟工業短大一名の計二十九名が合格しました。

学校だより

職員異動 平成九年四月

- 齊藤 正之先生(国語) 桐生高校へ
- 桑谷 寿長先生(情報) 館商工へ
- 新井 博文先生(数学) 館女高へ
- 忍田聡一郎先生(機械) 渡良瀬養へ
- 清水 智仁先生(情報) 前工へ
- 黒田 成義先生(社会) 新田暁高へ
- 新井 正幸先生(電気) 桐生工へ
- 額田 直彦先生(体育) 太田西女へ
- 本田 弘二先生(事務) 太田高へ
- 村川 克行先生(情報) 前工へ
- 高畑 隆悦先生(機械) 利根実業へ

次の先生方は新任の先生です。

- 丸山 哲雄先生(国語) 境高より
- 吉田 長正先生(情報) 館商工より
- 金子 敏彦先生(機械) 新田暁高より
- 綿貫 隆先生(情報) 高工より
- 木村 常昭先生(機械) 伊工より
- 大河原恭子先生(音楽) 新任
- 中野 智之先生(数学) 新任
- 松本 博之先生(情報) 新任
- 澤田 一也先生(事務) 板倉高より
- 小田桐和重先生(社会) 桐生女より

次の先生が退職されました。

- 齋藤 善七先生(音楽)
 - 毒島 久雄先生(機械)
- 長い間ご苦勞様でした。

〔訂正・お詫び〕

前号の計報欄に菊地 仁様を事務局の手違いで掲載してしまい、誠に申し訳ありませんでした。謹んでお詫び申し上げます。

編集後記

梅雨の晴れ間、赤城山へレンゲツツジを見にいってきました。山一面に今を盛りと咲き誇っていました。しかし、人の多さには驚きました。

今年度も常任幹事会を終え、次の大きな仕事である、同窓会報の編集を始めました。前号は、同窓会入会式について紹介しましたが、今号では前号に引き続き、本部の大きな仕事の一つである、常任幹事会について紹介をしました。

最後になりますが、今後共同窓会事業に、会員各位のご協力をお願いすると共に、今回寄稿を戴きました皆様方に紙面をかりて、厚く御礼申し上げます。

(菊地記)

